

学校基本情報

1、学校の概要、目標及び計画

(1) 建学の精神

開校以来、常に音楽・楽器業界と太いパイプを持ち、「業界の人材ニーズ」に応える形で、「音楽・楽器業界で役立つ人材を育成する」ことを目的とする。

(2) 教育理念・校訓

豊かな人間性

確かな知識・技術の習得

克己心

この三点を重視した教育活動を日々推進していく。

(3) 理事長及び校長名、所在地、連絡先等

学校法人中部学園 理事長 角堀 雅信

中部楽器技術専門学校 校長 角堀 雅信

(所在地) 〒466-0027 愛知県名古屋市昭和区阿由知通3丁目13番地の6

(連絡先) TEL 052-741-6788 FAX 052-741-6789

(ホームページ) www.chubugakki.ac.jp

(4) 学校の沿革

昭和54年11月	ピアノ調律師養成学校開校準備のため設立。名称 中部ピアノ調律専門学校
昭和55年4月	中部ピアノ調律専門学校を開校
	所在地 名古屋市昭和区御器所通3-2
昭和56年4月	中部ピアノ技術専修学校に改名、愛知県認可。
昭和62年4月	学校本部を名古屋市昭和区石仏町1-1へ移転
	ピアノ調律、管楽器リペア、ギタークラフトコースの3分野とする。
平成元年4月	校名を中部楽器技術専門学校と改名。
	学校本部を、名古屋市昭和区阿由知通3-13-6に置く
平成11年4月	ピアノ調律、管楽器リペアを学科、ギタークラフトコースを弦楽器製作科として設置変更。
平成13年4月	弦楽器製作科にバイオリン修理&製作コースを新たに設置。
平成16年4月	楽器総合学科を新設。
平成18年7月	三重県湯の山に研修施設を導入。
平成25年4月	学校法人中部学園を設立。
平成29年9月	名古屋市昭和区御器所通2丁目に新校舎が完成。
平成31年3月	名古屋市昭和区阿由知通3丁目に新本部棟が完成。

(5) その他の諸活動に関する計画

(学校安全計画) 毎年避難訓練を計画、実施。
防災用備品の備蓄を行い、非常時に備えている。

2、各学科の教育等

(1) 入学者に関する受入れ方針及び収容定員、在校生数

本校の課程、学科、及び修業年限並びに定員は、以下のとおりです。

分野	課程	学科名	修業年度	入学定員	総定員	昼夜
文化教養	専門課程	ピアノ調律科	2年	30名	60名	昼
		管楽器リペア科	2年	50名	100名	昼
		音楽サービス創造学科	3年	36名	108名	昼
合計				116名	268名	

ア) 入学資格

本校の入学資格は、高等学校卒業又は、これと同等の学力がある男女とする。
本校の入学には、特待生制度を設ける。

イ) 学科別在校生徒

令和4年5月1日現在

分野	課程	学科名	総定員数	在校生数
文化教養	専門課程	ピアノ調律科	60名	52名
		管楽器リペア科	100名	108名
		弦楽器製作科	20名	17名
		音楽サービス創造学科	108名	63名
			288名	240名

(2) カリキュラム

教育課程表

ピアノ調律科

科目 区分	授 業 科 目	講義 実技 別	1年	2年	授業時数	
			年間授業 時間数	年間授業 時間数	総 合 計 (単位)	
必 須 専 門 科 目	UP調律Ⅰ	実技	628		20	628
	UP調律Ⅱ	実技		338	11	338
	GP調律	実技		80	2	80
	UP整調Ⅰ	実技	142		4	142
	UP整調Ⅱ	実技		60	2	60
	GP整調	実技		138	4	138
	修理Ⅰ	実技	80		2	80
	修理Ⅱ	実技		64	2	64
	調律理論	講義	32	13	3	45
	整調理論	講義	50	36	5	86
	修理理論	講義	26	20	3	46
	業界ビジネス	講義	52	50	6	102
	ピアノ演奏	実技	6	5	2	11
	総合実践力	講義		30	2	30
	総合実践力(実技)	実技		40	1	40
必 須 教 養 科 目	楽器知識	講義	48		3	48
	音楽教養	講義	48	20	4	68
	国際音楽情報知識	講義		44	2	44
	音楽美学(特別講義)	講義	8	8	2	16
	ビジネスコミュニケーション	講義	52		3	52
	ホームルーム	講義	80	78	2	158
選 択 専 門 科 目	卒業前研修	実技		160	5	160
専門科目授業時数			1016	874	69	1890
教養科目授業時数			236	150	16	386
選択専門科目授業時数				160	5	160
卒業に必要な授業時数			1252	1024	85	2276
年間授業日数			210	200		

教育課程表

管楽器リペア科(Advance)

科目 区分	授 業 科 目	講義 実技 別	1年	2年		授業時数 総 合 計 (単位)	
			年間授 業時間 数	前期授 業時間 数	後期授 業時間 数		
必 須 専 門 科 目	基礎技術	実技	60			2	60
	フルート修理Ⅰ	実技	20			9	294
	フルート修理Ⅱ	実技			20		
	フルート修理Ⅲ	実技	129	85	40		
	クラリネット修理Ⅰ	実技	101			11	352
	クラリネット修理Ⅱ	実技	126	85	40		
	サクソフォン修理Ⅰ	実技	52			10	302
	サクソフォン修理Ⅱ	実技	125	85	40		
	木管総合修理Ⅰ	実技	5			2	63
	木管総合修理Ⅱ	講義		20			
	木管総合修理Ⅲ	実技			38		
	トランペット修理Ⅰ	実技	12			5	152
	トランペット修理Ⅱ	実技		22			
	トランペット修理Ⅲ	実技			22		
	トランペット修理Ⅳ	実技	84		12		
	トロンボーン修理Ⅰ	実技	12			4	122
	トロンボーン修理Ⅱ	実技		22			
	トロンボーン修理Ⅲ	実技			22		
	トロンボーン修理Ⅳ	実技	54		12		
	ホルン修理Ⅰ	実技	12			4	122
	ホルン修理Ⅱ	実技		22			
	ホルン修理Ⅲ	実技			22		
	ホルン修理Ⅳ	実技	54		12		
	金管総合修理Ⅰ	実技	22	12		4	148
	金管総合修理Ⅱ	実技	28	62	24		
	総合リペア	実技					0
	楽器演奏(FL/CL)	実技	20			2	30
	楽器演奏(SAX)	実技		10			
必 須 教 養 科 目	楽器構成論	講義	32	32		4	64
	吹奏楽 総合研究	講義	64			4	64
	商品知識	講義	32	32		4	64
	音楽史	講義		32		2	32
	楽器周辺 小物知識	講義					0
	営業力強化(検定対策)	講義					0
	パソコンスキル	講義					0
	打楽器メンテナンス演習	実技	32			1	32
	ビジネスコミュニケーション	講義	52			3	52
	ホームルーム	講義	16	16	16	2	48
選 択 専 門 科 目	卒業前研修	実技			160	5	160
	ソルフェージュ	講義			16	1	16
専門科目授業時数			916	425	304	53	1645
教養科目授業時数			228	112	16	20	356
選択専門科目授業時数				0	176	5	176
卒業に必要な授業時数			1144	537	320	73	2001
年間授業日数			210	200			

教育課程表

管楽器リペア科(Expansive)

科目 区分	授 業 科 目	講義 実技 別	1年	2年		授業時数 総 合 計 (単位)	
			年間授 業時間 数	前期授 業時間 数	後期授 業時間 数		
必 須 専 門 科 目	基礎技術	実技	60			2	60
	フルート修理Ⅰ	実技	20			7	234
	フルート修理Ⅱ	実技					
	フルート修理Ⅲ	実技	129	85			
	クラリネット修理Ⅰ	実技	101			10	312
	クラリネット修理Ⅱ	実技	126	85			
	サクソフォン修理Ⅰ	実技	52			8	262
	サクソフォン修理Ⅱ	実技	125	85			
	木管総合修理Ⅰ	実技	5			1	25
	木管総合修理Ⅱ	講義		20			
	木管総合修理Ⅲ	実技					0
	トランペット修理Ⅰ	実技	12			3	118
	トランペット修理Ⅱ	実技		22			
	トランペット修理Ⅲ	実技					
	トランペット修理Ⅳ	実技	84				
	トロンボーン修理Ⅰ	実技	12			2	88
	トロンボーン修理Ⅱ	実技		22			
	トロンボーン修理Ⅲ	実技					
	トロンボーン修理Ⅳ	実技	54				
	ホルン修理Ⅰ	実技	12			2	88
	ホルン修理Ⅱ	実技		22			
	ホルン修理Ⅲ	実技					
	ホルン修理Ⅳ	実技	54				
	金管総合修理Ⅰ	実技	22	12		4	124
	金管総合修理Ⅱ	実技	28	62			
	総合リペア	実技			160	5	160
	楽器演奏(FL/CL)	実技	20			2	30
	楽器演奏(SAX)	実技		10			
必 須 教 養 科 目	楽器構成論	講義	32	32		4	64
	吹奏楽 総合研究	講義	64			4	64
	商品知識	講義	32	32		4	64
	音楽史	講義		32		2	32
	楽器周辺 小物知識	講義			48	3	48
	営業力強化(検定対策)	講義			48	3	48
	パソコンスキル	講義			16	1	16
	打楽器メンテナンス演習	実技	32		32	2	64
	ビジネスコミュニケーション	講義	52			3	52
	ホームルーム	講義	16	16	16	2	48
選 択 専 門 科 目	卒業前研修	実技			160	5	160
	ソルフェージュ	講義			16	1	16
専門科目授業時数			916	425	160	46	1501
教養科目授業時数			228	112	160	28	500
選択専門科目授業時数				0	176	5	176
卒業に必要な授業時数			1144	537	320	74	2001
年間授業日数			210	200			

教育課程表

弦楽器製作科ギタークラフトコース

科目 区分	授 業 科 目	講義 実技 別	1年	2年	授業時数	
			年間授 業時間 数	年間授 業時間 数	総 合 計 (単位)	
必 須 専 門 科 目	ボルトオンネックギター製作Ⅰ(塗装)	実技	60		2	60
	ボルトオンネックギター製作Ⅱ(セットアップ)	実技	60		2	60
	ベース製作Ⅰ(ボディ加工)	実技	80		2	80
	ベース製作Ⅱ(ネック加工)	実技	128		4	128
	ベース製作Ⅲ(塗装)	実技	38		1	38
	ベース製作Ⅳ(セットアップ)	実技	36		1	36
	セットネックギター製作Ⅰ(ボディ加工)	実技	80	20	3	100
	セットネックギター製作Ⅱ(ネック加工)	実技	72	14	2	86
	セットネックギター製作Ⅲ(塗装)	実技		30	1	30
	セットネックギター製作Ⅳ(セットアップ)	実技		36	1	36
	アコースティックギター製作Ⅰ(ボディ加工)	実技		140	4	140
	アコースティックギター製作Ⅱ(ネック加工)	実技		80	2	80
	アコースティックギター製作ⅢⅣ(塗装)(セットアップ)	実技		60	2	60
	卒業製作Ⅰ(ボディ加工)	実技		120	4	120
	卒業製作Ⅱ(ネック加工)	実技		80	2	80
	卒業製作Ⅲ(塗装)(セットアップ)	実技		64	2	64
	刃物研ぎ・鉋台調整	実技	114		3	114
	治具工具製作	実技	70		2	70
	設計・製図	実技	100	116	7	216
	リペア	実技	68	68	4	136
	リペア理論	講義	12	12	1	24
	製作理論	講義	58	42	6	100
	構成論	講義	30	30	4	60
	電気理論	講義	40	40	5	80
	業界ビジネス	講義	40	20	4	60
必 須 教 養 科 目	楽器知識	講義	48		3	48
	音楽教養	講義	40	40	5	80
	ビジネスコミュニケーション	講義	52		3	52
	ホームルーム	講義	60	60	2	120
選 択 専 門 科 目	卒業前研修	実技		160	5	160
専門科目授業時数			1086	972	71	2058
教養科目授業時数			200	100	13	300
選択専門科目授業時数				160	5	160
卒業に必要な授業時数			1286	1072	84	2358
年間授業日数			210	200		

教育課程表

音楽サービス創造学科

科目 区分	授 業 科 目		第1学年	第2学年	第3学年		授業時数 総 合 計 (単位)	
		講義 実技 別	年間授 業時間 数	年間授 業時間 数	年間授 業時間 数	コース選択 授業時数 合計		
必 須 専 門 科 目	鍵盤楽器	講義	64	64			8	128
	鍵盤楽器(実技)	実技	64	64			4	128
	管楽器	講義	64	64			8	128
	管楽器(実技)	実技	64	64			4	128
	ギター	講義	64	64			8	128
	バイオリン	講義	60	60			8	120
	バイオリン(実技)	実技	60	60			4	120
	打楽器	講義		64			4	64
	電子楽器	講義		60			4	60
	小物楽器	講義	64				4	64
	楽器演奏	実技	64	80			4	144
	舞台音響技術	講義	64	64			8	128
	舞台音響技術(実技)	実技	64	64			4	128
	コンサート制作	講義		48			3	48
	クラフト技術	実技	140				4	140
必 須 教 養 科 目	楽典	講義	64				4	64
	音楽概論Ⅰ	講義	64				4	64
	音楽概論Ⅱ	講義		64			4	64
	音楽産業論	講義	32				4	32
	リテールマーケティング	講義		48			3	48
	音楽心理学	講義		16			1	16
	ホームルーム	講義	80	80	30		6	190
	ビジネスコミュニケーション	講義	52				3	52

選択技術（必修）科目	ピアノ調律実技	実技		112	600	800	23	712
	ピアノ調律理論	講義			200		13	200
	管楽器リペア実技	実技		112	600	800	23	712
	管楽器リペア理論	講義			200		13	200
	舞台・ギターリペア実技	実技		112	600	800	23	712
	舞台・ギターリペア理論	講義			200		13	200
	※各コース912時間 合計36単位とする							
選択（任意）科目	音楽著作権	講義			32		2	32
	ピアノ調律技能検定対策(学科)	講義			16		1	16
	音楽研究	講義			32		2	32
	リテールマーケティングⅡ	講義			32		2	32
	コンサート制作Ⅱ	講義			32		2	32
	音楽健康指導士	講義			32		2	32
	バイオリン毛替え実習	実技			80		2	80
選択専門科目	卒業前研修	実技			160		5	160
必須専門科目授業時数			836	820	0		79	1656
必須教養科目授業時数			292	208	30		29	530
選択技術(必修)科目授業時数				112	800		36	912
選択(任意)科目授業時数					(256)		(13)	(256)
選択専門科目授業時数					160		5	160
卒業に必要な授業時数			1128	1140	830		144	3098
年間授業日数			210	200	200			

(3) 進級、卒業の要件等

ア) 進級について

当該学年において、定められた単位をすべて修得したものに進級を認める。

イ) 卒業について

学校が定めた単位すべてを修得したものに、卒業を認め、卒業証書を授与する。

(4) 学習の成果として取得を目指す資格

【ピアノ調律科】

*ピアノ調律技能検定3級 (一般社団法人 日本ピアノ調律師協会 主催)

【音楽サービス創造科】

*舞台機構調整技能士 (都道府県職業能力開発協会 主催)

(5) 資格取得、検定試験合格等の実績

【ピアノ調律科】

*ピアノ調律技能検定3級 2年度検定なし

【音楽サービス創造科】

*舞台機構調整技能士3級 受験者数10名 合格者10名 合格率100%

(6) 卒業者数、卒業後の進路

ア) 令和4年度卒業者数 117名

イ) 令和4年度進路状況 就職 104名

ウ) 令和4年度主な就職先

河合楽器製作所/第一楽器/島村楽器/星野楽器販売

ヤイリギター/ヤマハミュージックマニュファクチャリング

3、教職員

教員		職員		計
本務	兼務	本務	兼務	
15	23	7	1	46

4、キャリア教育活動・教育環境

(1) キャリア教育への取組状況

学生の就職支援の一環として、キャリア教育の更なる充実・向上を図っている。

○教員のキャリア教育（キャリアサポーター研修）への参加。

○教員のポートフォリオ作成勉強会

○キャリアワーク授業のカリキュラム組み込み。

○全学生対象のポートフォリオ

(2) 実習・実技等の取組状況

就職後の即戦力に向け実践的授業となるインターン実習に力を入れている。

○ピアノ調律科：大学からの依頼による大学内のピアノの調律

⇒24台のピアノ調律を実施。

○管楽器リペア科：企業（楽器店）と連携した「学校訪問修理」の実施。

⇒4校で管楽器修理を実施

5、様々な教育活動・教育環境

(1) 学校行事への取組状況

月	学校行事
4月	入学式、新年度合宿、消火訓練
5月	健康診断、浜松工房見学
6月	ヤマハ工場見学、ピアノ歴史館見学
7月	
8月	
9月	ミュージカル鑑賞、ヤマハ工場見学
10月	
11月	学園祭
12月	
1月	
2月	卒業前研修
3月	卒業式

(2) 課外活動

- ・各種コンサート鑑賞

(3) 地域貢献活動

- ・昭和区民まつり参加（10月）
- ・学区及び地域イベントにおける演奏ボランティア参加（11月）
- ・名古屋市施設訪問交流演奏会主催（12月）

(4) 教育環境

- ・各学科専用の実習室
- ・専門分野を中心とした図書・ライブラリアン
- ・調律トレーニング防音BOX
- ・音響スタジオ

6、学生の生活支援

- ・クラス担任制によりきめ細かな学生サポート、指導を実施。
- ・保護者宛てに、今後の予定、出席状況ならびに学期ごとの成績表の送付。
- ・遠方の入学生に対し学園推奨のアパートを紹介。
- ・就職指導担当は、就職先の開拓を毎年行い、卒業生の活躍の場を広げている。

7、学生納付金・就学支援

(1) 学生納付金

区分	文化教養専門課程			
	ピアノ調律科	管楽器リペア科	弦楽器製作科	音楽サービス創造学科
授業料(月額)	60,000	60,000	60,000	55,000
入学料	300,000	300,000	300,000	300,000
入学検定料	20,000	20,000	20,000	20,000
教育充実費(年額)	240,000	280,000	270,000	220,000
施設費(年額)	330,000	330,000	330,000	220,000

- ・全学科とも、自己所有の工具やオリジナルテキスト・制服代等が別途必要。
¥150,000円～¥220,000程度。
- ・各工場見学や合宿研修などの交通費や学生保険、卒業アルバム制作などの目的に、
積立金として、全学科とも年間¥80,000（前期分¥40,000、後期分¥40,000）
が別途必要。

【納入時期】

- ・ＡＯ入試、推薦入試合格者
合格発表から2週間以内。
- ・一般入試合格者
合格発表から1週間以内。

(2) 特待生制度

- ア、ＡＯ入試特待生制度
- ①後期授業料30万円免除
- ②後期授業料20万円免除
- ③後期授業料10万円免除

(3) 就学支援

- ア、日本学生支援機構奨学金
- イ、各種教育ローン
- ウ、オリエントコーポレーションの学費サポートローン
- エ、ジャックスの学費サポートローン

8、学校の財務

- 令和3年度財務計算書類のうち下記のことを本校ホームページに公表しております。
- ・資金収支計算書
 - ・消費収支計算書
 - ・貸借対照表

9、学校評価

- (1) 自己評価
令和3年度学校自己評価報告書を本校ホームページにて公表しております。
- (2) 学校関係者評価
令和3年度学校関係者評価を本校ホームページにて公表しております。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ピアノ調律学科) 令和04年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			UP調律Ⅰ	UP調律の基本を学ぶ。 ユニゾン・各音域のオクターブ・基本の音階を作ることを学ぶ。120分で4Hzを変更する1台調律ができるようになる。	1通	628	20			○	○		○			
○			UP調律Ⅱ	UP調律の時間短縮と精度アップを図る。 90分で2Hzと4Hzを変更する1台調律ができるようになる。	2通	338	11			○	○		○			
○			GP調律	GPの調律もUPと同様に仕上げられる様に、各オクターブの取り方とユニゾンの合わせ方、バランスの取り方を1台仕上げを通して学び、精度を上げる。	2通	80	2			○	○		○			
○			UP整調Ⅰ	UPの打弦機構の構造を知り、各工程を基準寸法に合わせる方法を学ぶ。	1通	142	4			○	○		○			
○			UP整調Ⅱ	不良のあるアクションを、自ら問題箇所を見つけ定められた時間内で、正常に動作させる調整を学ぶ。	2通	60	2			○	○		○			
○			GP整調	GPの打弦機構の構造を知り、各工程を基準寸法に合わせる方法を学ぶ。	2通	138	4			○	○		○			
○			修理Ⅰ	各フェルト、クロス、弦など、1つ1つの部品を正確に交換する技術を学ぶ。	1通	80	2			○	○		○			
○			修理Ⅱ	フレンジコード全交換や鍵盤ブッシングクロス交換など1台にわたる修理を、手早く行う技術を学ぶ。	2通	64	2			○	○		○			
○			調律理論	音の性質、音律など、ピアノに関わる音の構成について学ぶ	1通 2前	45	3	○			○		○			
○			整調理論	UP、GPの各部品名称と打弦機構の構造を学ぶ	1・2通	86	5	○			○		○			

[illegible]

[illegible]

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
所定の課程を修了すること。講義・実習科目は全て必修とする。筆記試験・実技試験の合格を原則とする。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	1 9 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
中部楽器技術専門学校	平成1年4月1日	角堀 雅信	〒466-0027 愛知県名古屋市中区阿由知通3-13-6 (電話) 052-741-6788				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人中部学園	平成25年4月1日	理事長 角堀雅信	〒466-0027 愛知県名古屋市中区阿由知通3-13-6 (電話) 052-741-6788				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化教養専門課程	ピアノ調律科	平成六年文部科学省 告示第84号				
学科の目的	楽器の修理・製作のスペシャリストの養成						
認定年月日	平成27年2月17日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	
2	年	2276時間	695時間	0	0	0	
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	52人	0人	3人	3人	7人		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末の学科試験・実技試験の成績に出席率を加味して評価する			
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏 季:7月23日～8月21日 ■冬 季:12月17日～1月9日 ■学年末:3月11日～3月31日		卒業・進級 条件	所定の課程を修了すること。講義・実習科目は全て必修とする。筆記試験・実技試験の合格を原則とする。			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的に連絡をとり、必要に応じて本人や保護者同伴で面接を実施する。		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園祭実行委員、施設等へのボランティア演奏 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)			
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 楽器店		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	資格・検定名			
	■就職指導内容 履歴書指導、個別面談、企業への学生斡旋			受験者数			
	■卒業生数			合格者数			
	■就職希望者数						
	■就職者数						
■就職率							
■卒業者に占める就職者の割合							
■その他 療養生活 1							
(令和2年度卒業生に関する 令和4年5月1日 時点の情報)							
中途退学 の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 1% 令和3年5月1日時点において、在学者55名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者53名(令和4年3月5日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 精神的な病気 ■中退防止・中退者支援のための取組 必要に応じて本人に面接を実施する。						
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)						
当該学科の ホームページ URL	http://www.chubugakki.ac.jp						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進路希望等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

楽器業界の役職員や、業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する団体役員と、協同し教育課程を編成する。楽器業界における産業振興の方向性や、新しく身につけるべき知識やスキルを業界に携わる専門家の意見を随時取り入れることにより、自薦的かつ職業教育に適した教育課程の編成、授業内容の改善・工夫を連携してい

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善委員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善委員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
中村 隆太郎	ナカムラ調律 代表	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
岡田 光史	ビュッフェ・グランポン・ジャパン大阪営業所長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
寺田 章吾	(株)寺田楽器 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
高橋 英二郎	(資)中善楽器 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
松石 奉之	愛知県楽器商組合 組合長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
角堀 雅信	中部楽器技術専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
早川 昌幸	中部楽器技術専門学校 進路指導部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
中村 大	中部楽器技術専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月9日 17:00～18:00

第2回 令和5年2月15日 17:00～18:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

今後も技術の基本はもちろん、人間教育についても引き続き指導してほしい。特に挨拶は、良い年もあれば良くない年も感じるため、校内の人だけでなく、来客に対しても分け隔てなくできるようになってほしい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

楽器業界が求める人材を、企業等の連携により、実習・演習等の授業を通して身に着けることによって、実践的、専門的なレベルの高い人材を育成することを目指す。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

現役のピアノ調律師からピアノの調律の基礎について学ぶ。実習では、実際に使用されている様々な種類のピアノを使用しそれぞれの特性に応じた調律方法、技術習得を図る。

実習前に実習講師と校内の教員が授業の方法、内容等の打ち合わせを行い、実習内容や生徒の学修成果の評価方法について定める。

実習期間中は、学生の実習実施状況や進捗状況等を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
UP調律Ⅰ	ユニゾン合わせを行う中で、基本姿勢、工具の使い方、音の合わせ方の基礎を学ぶ。	木村ピアノ工房
UP調律Ⅱ	各音域ごとに正しいオクターブを作り、検査により自ら精度のチェックができるようになる。	木村ピアノ工房
UP調律Ⅱ	正しい平均調律割振を作り、ユニゾンを合わせても狂わないように音を保持できるようにする。	木村ピアノ工房

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の資質向上を図る目的として、専攻分野の講師を招き、教員に対し実技に関する知識・技術等を校内で、実施している。また、教員を企業等へ派遣し知識・技術等の研修も行う。さらに、外部団体が主催する研修等にも参加し実践的かつ専門的な知識・技術・技能の向上に努める。生徒及び授業に対する指導力の向上の研修は外部講師を招き校内で実施している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ピアノ調律科実技研修」(連携企業等:株久米)
 期間:8月2日(土) 対象:ピアノ調律科
 内容:UPアクションモデルの改善

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力の研修」(連携企業等:株ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)
 期間:5月～3月 対象:全学科
 内容:非認知能力について学び、学生の非認知能力向上のための授業設計を実践していく。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ピアノ調律科実技研修」(連携企業等:株久米)
 期間:7月25日(火) 対象:ピアノ調律科
 内容:ピアノ設計者の方を招いての勉強会

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力の研修」(連携企業等:株ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)
 期間:5月～3月 対象:全学科
 内容:非認知能力について学び、学生の非認知能力向上のための授業設計を実践していく。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、教育活動や学校運営の状況に関する評価を積極的に行い、その結果に基づいて改善を図り、社会にとって必要な人材を育成して行く。
自己点検評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明により、関係者に対して適切な説明責任を果たしていく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・委員からLGBTについて今後企業もどう受け入れていくかを考える必要があるので、学校としてもどう対応していくかについて考えていく必要があるとの意見があった。
委員からは技術者としての能力に加え、精神を鍛えるようなことを取り組んで欲しいとの依頼があった。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
矢木 敏喜	(株)矢木楽器 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業役員
松石 奉之	愛知県楽器商組合 組合長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等役員
鈴木 武裕	(株)愛知銀行 執行役員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業役員
梶田 詩織	(株)ビュッフェ・クランボン 営業部チーフ	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL:www.chubugakki.ac.jp

公表時期:5年3月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

平成19年度より学校教育法第133条、第134条第2項において準用する第42条及び同法施行規則第189条、第190条において準用する66条、68条により、学校自己評価の実施公表は実施することが義務付けられました。これに伴うかたちで本校では、平成26年度より学校自己評価委員会を立ち上げました。また、平成26年度より学校関係者評価に関するシステムの構築も手掛けています。
自己点検を行うことで、更なる教育水準の向上に努めるよう工夫していきます。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標

(2)各学科等の教育	学校運営
(3)教職員	学校運営
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学修成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生の受け入れ募集
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:www.chubugakki.ac.jp

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
中部楽器技術専門学校	平成1年4月1日	角堀 雅信	〒466-0027 愛知県名古屋市中区阿由通3-13-6 (電話) 052-741-6788																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人中部学園	平成25年4月1日	理事長 角堀雅信	〒466-0027 愛知県名古屋市中区阿由通3-13-6 (電話) 052-741-6788																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士 高度専門士																								
文化・教養	文化教養専門課程	音楽器リペア科	平成6年文部科学省 告示第84号																								
学科の目的	楽器の修理・製作のスペシャリストの養成																										
認定年月日	平成27年2月17日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時間又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	2001時間	472時間(360時間)	0	0	0	1529時間(1641時間) 単位時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
100人	108人	1人	6人	6人	12人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表:有 ■成績評価の基準・方法 期末の学科試験・実技試験の成績に出席率を加味して評価する																						
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:7月23日～8月21日 ■冬季:12月17日～1月9日 ■学年末:3月11日～3月31日			卒業・進級条件	所定の課程を修了すること。講義・実習科目は全て必修とする。筆記試験・実技試験の合格を原則とする。																						
学修支援等	■クラス担任制:有 ■個別相談・指導等の対応 定期的に連絡をとり、必要に応じて本人や保護者同伴で面接を実施する。			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園祭実行委員、施設等へのボランティア演奏 ■サークル活動:無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 楽器店 ■就職指導内容 履歴書指導、個別面談、企業への学生斡旋 ■卒業生数 54 人 ■就職希望者数 49 人 ■就職率 91 % ■卒業生に占める就職者の割合 83 % ■その他 ・進学者数:3人 (令和2年度卒業生に関する 令和3年3月1日時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヤマハ技術評価</td><td>③</td><td>5名</td><td>5名</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ヤマハ技術評価	③	5名	5名												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
ヤマハ技術評価	③	5名	5名																								
中途退学の現状	■中途退学者 4名 ■中途退学率 3% 令和3年5月1日時点において、在学者116名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者112名(令和4年3月5日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 精神的な病 ■中退防止・中退者支援のための取組 必要に応じて本人に面談を実施する。																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	http://www.chubugakki.ac.jp																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

楽器業界の役職員や、業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する団体役員と、協同し教育課程を編成する。楽器業界における産業振興の方向性や、新しく身につけるべき知識やスキルを業界に携わる専門家の意見を随時取り入れることにより、自薦的かつ職業教育に適した教育課程の編成、授業内容の改善・工夫を連携してい

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善委員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善委員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
中村 隆太郎	ナカムラ調律 代表	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
岡田 光史	ビュッフェ・グランポン・ジャパン大阪営業所長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
寺田 章吾	(株)寺田楽器 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
高橋 英二郎	(資)中善楽器 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
松石 奉之	愛知県楽器商組合 組合長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
角堀 雅信	中部楽器技術専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
早川 昌幸	中部楽器技術専門学校 進路指導部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
中村 大	中部楽器技術専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月9日 17:00～18:00

第2回 令和5年2月15日 17:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

会社に入って全く触れないものが多いので、新カリキュラムの「打楽器メンテナンス」に期待している。

これからは技術のみだけではなく、「地域のバンドコーディネータ」ができるような授業も取り入れてもらえるとうい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

楽器業界が求める人材を、企業等の連携により、実習・演習等の授業を通して身に着けることによって、実践的、専門的なレベルの高い人材を育成することを目指す。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
フルート修理Ⅰ	管楽器修理を行う上での技術的な事を学ぶ。フルートの調整・メンテナンスを通して管楽器修理のあり方を学ぶ。	管楽器工房Geppetto
クラリネット修理Ⅰ	管楽器修理を行う上での技術的な事を学ぶ。クラリネットの分解・組立て、コルクの効果を通して管楽器修理のあり方を学ぶ。	管楽器工房Geppetto
サクソフォーン調整・メンテナンス	管楽器修理を行う上での技術的な事を学ぶ。サクソフォーンの調整・メンテナンスを通して管楽器修理のあり方を学ぶ。	管楽器工房Geppetto
クラリネットタンポ交換	管楽器修理を行う上での技術的な事を学ぶ。クラリネットのタンポ交換を通して基礎的な事を学ぶ。	管楽器工房Geppetto

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の資質向上を図る目的として、専攻分野の講師を招き、教員に対し実技に関する知識・技術等を校内で、実施している。また、教員を企業等へ派遣し知識・技術等の研修も行う。さらに、外部団体が主催する研修等にも参加し実践的かつ専門的な知識・技術・技能の向上に努める。生徒及び授業に対する指導力の向上の研修は外部講師を招き校内で実施している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「管楽器リペア科実技研修」(連携企業等:管楽器工房GEPPETO)
 期間:2022年8月1日(月)、2日(火) 対象:管楽器リペア科
 内容:木管修理技術の習得
 各教員のレベルを分けて、それぞれの課題を実施する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力の研修」(連携企業等:㈱ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)
 期間:5月～3月 対象:全学科
 内容:非認知能力について学び、学生の非認知能力向上のための授業設計を実践していく。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「管楽器リペア科実技研修」(連携企業等:管楽器工房GEPPETO)
 期間: 対象:管楽器リペア科
 内容:木管修理技術の習得

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力の研修」(連携企業等:㈱ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)
 期間:5月～3月 対象:全学科
 内容:非認知能力について学び、学生の非認知能力向上のための授業設計を実践していく。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、教育活動や学校運営の状況に関する評価を積極的に行い、その結果に基づいて改善を図り、社会にとって必要な人材を育成して行く。

自己点検評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明により、関係者に対して適切な説明責任を果たしていく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・委員の方から「教育環境」において、平成31年3月に新本部棟が完成し、御器所校舎(平成29年9月完成)とともに施設・設備は充実したと言える。今後の学生募集の増加に期待したい。

・学生指導については、最近の若者に不足している要素を在学中に向上させる指導ができないか。また、就職後に即戦力になるような学生を輩出するようなカリキュラムも考えてみたらどうか等の意見が出された。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
矢木 敏喜	(株)矢木楽器 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業役員
松石 奉之	愛知県楽器商組合 組合長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等役員
鈴木 武裕	(株)愛知銀行 執行役員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業役員
梶田 詩織	(株)ビュッフェ・クランポン 営業部チーフ	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL:www.chubugakki.ac.jp

公表時期:5年3月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

平成19年度より学校教育法第133条、第134条第2項において準用する第42条及び同法施行規則第189条、第190条において準用する66条、68条により、学校自己評価の実施公表は実施することが義務付けられました。これに伴うかたちで本校では、平成26年度より学校自己評価委員会を立ち上げました。また、平成26年度より学校関係者評価に関するシステムの構築も手掛けています。

自己点検を行うことで、更なる教育水準の向上に努めるよう工夫していきます。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標
(2)各学科等の教育	学校運営
(3)教職員	学校運営

(4)キャリア教育・実践的職業教育	学修成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生の受け入れ募集
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	0
(11)その他	0

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:www.chubugakki.ac.jp

授業科目等の概要

(文化教養専門課程音楽器リペア学科) 令和04年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	
○			基礎技術	工具製作・工具加工、ヤスリ掛け、溶接技術を修得する。	1通・2前	60	2			○	○		○	○
○			フルート修理Ⅰ	フルートの構造を理解し、分解組立、磨きなどを含め最良のメンテナンス方法を習得する。	1前	20	9			○	○		○	○
○			フルート修理Ⅱ	ノックピン交換、トリルキョークの交換について、美しく正確に交換できるように技術を習得する。	2後	20				○	○		○	○
○			フルート修理Ⅲ	タンポの特徴を理解し、早く美しく確実に音孔を塞ぐ技術を習得する。また、1本の楽器として最良な状態に調整する技術を習得する。	1・2通	254				○	○		○	○
○			クラリネット修理Ⅰ	クラリネットの構造を理解し、分解組立、磨きなどを含め最良のメンテナンス方法を習得する。また、コルク交換を主に美しく正確に交換できるように技術を習得する。	1通	101	11			○	○		○	○
○			クラリネット修理Ⅱ	タンポの特徴を理解し、早く美しく確実に音孔を塞ぐ技術を習得する。また、1本の楽器として最良な状態に調整する技術を習得する。	1・2通	251				○	○		○	○
○			サクソフォン修理Ⅰ	サクソフォンの構造を理解し、分解組立、磨きなどを含め最良のメンテナンス方法を習得する。また、コルク交換を主に美しく正確に交換できるように技術を習得する。	1通	52	10			○	○		○	○
○			サクソフォン修理Ⅱ	タンポの特徴を理解し、早く美しく確実に音孔を塞ぐ技術を習得する。また、1本の楽器として最良な状態に調整する技術を習得する。	1・2通	250				○	○		○	○
○			木管総合修理Ⅰ	パネ交換作業、ガタとりなどの作業技術を習得する。	1通	5	2			○	○		○	○
○			木管総合修理Ⅱ	検品・見積りの手法を修得する。	2前	20		○		○		○	○	○
○			木管総合修理Ⅲ	基礎・基本を学んだ内容に応用し、修理が必要な箇所を的確に判断し一本の楽器としてお客様に提供できるように、早く美しく確実な作業習得を目指す。	2後	38				○	○		○	○
○			トランペット修理Ⅰ	トランペットの構造を理解し、技術者レベルのメンテナンスを習得する。	1通	12	5			○	○		○	
○			トランペット修理Ⅱ	検品・見積りの手法を修得する。	2前	22				○	○		○	
○			トランペット修理Ⅲ	基礎・基本を学んだ内容に応用し、修理が必要な箇所を的確に判断し一本の楽器としてお客様に提供できるように、早く美しく確実な作業習得を目指す。	2後	22				○	○		○	
○			トランペット修理Ⅳ	ピストンの構造を理解し、動作不良に対して適切な処置をする。また、マウスパイプ交換の交換技術を習得する。	1通・2後	96				○	○		○	
○			トロンボーン修理Ⅰ	トロンボーンの構造を理解し、技術者レベルのメンテナンスを習得する。	1通	12	4			○	○		○	
○			トロンボーン修理Ⅱ	検品・見積りの手法を修得する。	2前	22				○	○		○	
○			トロンボーン修理Ⅲ	基礎・基本を学んだ内容に応用し、修理が必要な箇所を的確に判断し一本の楽器としてお客様に提供できるように、早く美しく確実な作業習得を目指す。	2後	22				○	○		○	
○			トロンボーン修理Ⅳ	トロンボーンのスライドの構造を理解し、動作不良に対して適切な処置を行い、最良の状態にする技術を習得する。	1通・2後	66				○	○		○	
○			ホルン修理Ⅰ	ホルンの構造を理解し、技術者レベルのメンテナンスを習得する。	1通	12				○	○		○	

[illegible]

授業科目等の概要

(文化教養専門課程音楽器リペア学科) 令和04年度												
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	
○				基礎技術	工具製作・工具加工、ヤスリ掛け、溶接技術を修得する。	1通	60	2			○	○
○				フルート修理Ⅰ	フルートの構造を理解し、分解組立、磨きなどを含め最良のメンテナンス方法を習得する。	1通	20	7			○	○
○				フルート修理Ⅱ	ノックピン交換、トリルキイコルクの交換について、美しく正確に交換できるように技術を習得する。						○	○
○				フルート修理Ⅲ	タンポの特徴を理解し、早く美しく確実に音孔を塞ぐ技術を習得する。また、1本の楽器として最良な状態に調整する技術を習得する。	1・2前	214				○	○
○				クラリネット修理Ⅰ	クラリネットの構造を理解し、分解組立、磨きなどを含め最良のメンテナンス方法を習得する。また、コルク交換を主に美しく正確に交換できるように技術を習得する。	1通	101	10			○	○
○				クラリネット修理Ⅱ	タンポの特徴を理解し、早く美しく確実に音孔を塞ぐ技術を習得する。また、1本の楽器として最良な状態に調整する技術を習得する。	1・2前	211				○	○
○				サクソフォン修理Ⅰ	サクソフォンの構造を理解し、分解組立、磨きなどを含め最良のメンテナンス方法を習得する。また、コルク交換を主に美しく正確に交換できるように技術を習得する。	1通	52	8			○	○
○				サクソフォン修理Ⅱ	タンポの特徴を理解し、早く美しく確実に音孔を塞ぐ技術を習得する。また、1本の楽器として最良な状態に調整する技術を習得する。	1・2前	210				○	○
○				木管総合修理Ⅰ	パネ交換作業、ガタとりなどの作業技術を習得する。	1通	5	1			○	○
○				木管総合修理Ⅱ	検品・見積りの手法を修得する。	2前	20		○		○	○
○				木管総合修理Ⅲ	基礎・基本を学んだ内容を応用し、修理が必要な箇所を的確に判断し一本の楽器としてお客様に提供できるように、早く美しく確実な作業習得を目指す。						○	○
○				トランペット修理Ⅰ	トランペットの構造を理解し、技術者レベルのメンテナンスを習得する。	1通	12	3			○	○
○				トランペット修理Ⅱ	検品・見積りの手法を修得する。	2前	22				○	○
○				トランペット修理Ⅲ	基礎・基本を学んだ内容を応用し、修理が必要な箇所を的確に判断し一本の楽器としてお客様に提供できるように、早く美しく確実な作業習得を目指す。						○	○
○				トランペット修理Ⅳ	ピストンの構造を理解し、動作不良に対して適切な処置をする。また、マウスバイプ交換の交換技術を習得する。	1通	84				○	○
○				トロンボーン修理Ⅰ	トロンボーンの構造を理解し、技術者レベルのメンテナンスを習得する。	1通	12	2			○	○
○				トロンボーン修理Ⅱ	検品・見積りの手法を修得する。	2前	22				○	○
○				トロンボーン修理Ⅲ	基礎・基本を学んだ内容を応用し、修理が必要な箇所を的確に判断し一本の楽器としてお客様に提供できるように、早く美しく確実な作業習得を目指す。						○	○

○		トロンボーン修理Ⅳ	トロンボーンのスライドの構造を理解し、動作不良に対して適切な処置を行い、最良の状態にする技術を習得する。	1通	54				○	○			○	
○		ホルン修理Ⅰ	ホルンの構造を理解し、技術者レベルのメンテナンスを習得する。	1通	12				○	○			○	
○		ホルン修理Ⅱ	換品・見積りの手法を修得する。	2前	22				○	○			○	
○		ホルン修理Ⅲ	基礎・基本を学んだ内容に応用し、修理が必要な箇所を的確に判断し一本の楽器としてお客様に提供できるように、早く美しく確実な作業習得を目指す。						○	○			○	
○		ホルン修理Ⅳ	ホルンのロータリーの構造を理解し、動作不良に対して適切な処置を行い、最良の状態にする技術を習得する。	1通	54				○	○			○	
○		金管総合修理Ⅰ	枝差管の動作不良に対して適切な処置を行い、最良の状態にする技術を習得する。	1通・ 2前	34				○	○			○	
○		金管総合修理Ⅱ	様々な場所の色々な凹みに対して、最適な治工を選択し、早く美しく元の状態に戻す技術を習得する。	1通・ 2前	90				○	○			○	
○		総合リペア	木管・金管楽器の構造を正確に理解し、メンテナンス・調整の基礎・基本を応用し、素早く・美しく確実な作業習得を目指す。	2後	160	5			○	○			○	
○		楽器演奏（FL/CL）	フルート及びクラリネットの正しい奏法を理解し、試奏による換品や初級・中級者に向けて奏法のアドバイスができる技術を習得する。	1通	20				○	○			○	
○		楽器演奏（SAX）	サクソフォーンの正しい奏法を理解し、試奏による換品や初級・中級者に向けて奏法のアドバイスができる技術を習得する。	2前	10				○	○			○	
○		楽器構成論	管楽器それぞれの構造・歴史・種類について学ぶほか、プレイヤー、教本・リパートリー、または管楽器の製造法についても学ぶ。	1通・ 2前	64	4	○		○				○	
○		吹奏楽総合研究	歴史を理解する事で吹奏楽への興味を抱く。また、読譜や演奏時に於ける楽譜の正しい理解を深め、楽曲の演奏を通して総合的に吹奏楽を研究する。	1通	64	4	○		○				○	
○		商品知識	管楽器に関わる商品をピックアップし、個々又はグループで調査し、その結果をプレゼンテーションし共有することで、プレゼン能力や商品知識を学ぶ。	1通・ 2前	64	4	○		○				○	
○		音楽史	バロック時代、古典派、ロマン派、近・現代に存在した主要な作曲家を取り上げ、作曲された曲の背景を感じながら音楽を分析する。	2前	32	2	○		○				○	
○		楽器周辺 小物知識	木管（マウスピース、リード）、金管（マウスピース）、打楽器（スティック）等々、楽器本体に付属する周辺の小物を調査・理解し的確なアドバイス方法を学ぶ。	2後	48	3	○		○				○	
○		営業力強化（検定対策）	営業理論・営業技術・営業管理などを総合的に学びながら基礎を修得する。	2後	48	3	○		○				○	
○		パソコンスキル	Excel・Word・PowerPointを使用し、ポップやチラシ作成の手法を学ぶ。また、PowerPointを活用して、プレゼンテーションの手法も学ぶ。	2後	16	1	○		○				○	
○		打楽器メンテナンス講習	セットアップ、チューニング、お手入れ実践、部品の交換、運搬時の注意、メンテナンス用品を学ぶ。	1通・ 2後	64	2			○	○			○	
○		ビジネスコミュニケーション	ビジネスマンとしてのコミュニケーション力はもちろん、自己管理能力、自己志向力、協調志向力、基礎ビジネス力を向上し、人間力のアップを目指す。	1通	52	3	○				○	○		
○		ホームルーム	あいさつ、グループワーク、QCDについて学ぶ。合宿、工場見学などの事前準備を行う。	1・ 2通	48	2	○		○			○		
	○	卒業前研修	個人の技術向上や、内定企業で実際の職務を体験し、卒業後に即戦力として活躍できる下地をつくる。	2後	160	5			○	○	○			

		○	ソルフェージュ	正しい音の高さを身に付け、リズムを理解する（視唱）、音楽全体を捉える力を付ける（聴音）、自分の力で音楽を読み取る（楽典）事を学ぶ。	2 後	16	1	○			○		○		
合計				40科目	2001	単位時間（				74	単位）				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	19週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することを求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知) (25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」とについては、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得など」を希望する者は含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のため母集団となる学生等は、卒業年度中に在籍している学生等です。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生等は除きます。
(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職した者が就職先が不明の者は就職者として扱う)。
③上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学希望者について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

楽器業界の役職員や、業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する団体役員と、協同し教育課程を編成する。楽器業界における産業振興の方向性や、新しく身につけるべき知識やスキルを業界に携わる専門家の意見を随時取り入れることにより、自薦的かつ職業教育に適した教育課程の編成、授業内容の改善・工夫を連携していく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善委員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善委員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
中村 隆太郎	ナカムラ調律 代表	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
岡田 光史	ビュッフェ・グランポン・ジャパン大阪営業所長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
寺田 章吾	(株)寺田楽器 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
高橋 英二郎	(資)中善楽器 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
松石 奉之	愛知県楽器商組合 組合長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
角堀 雅信	中部楽器技術専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
早川 昌幸	中部楽器技術専門学校 進路指導部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
中村 大	中部楽器技術専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月9日 17:00～18:00

第2回 令和5年2月15日 17:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

モニターやiPadを使うことで、製作の説明部分をへらしたことは、効率化を感じる。

今のうちに学生の「ITの思考」を持たせることも大切である。仕事に出てもすぐに使えるようにMicrosoft365を利用してるのはよいことだ。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

楽器業界が求める人材を、企業等の連携により、実習・演習等の授業を通して身に着けることによって、実践的、専門的なレベルの高い人材を育成することを目指す。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ギターの修理を営む企業の講師からギターの修理の方法について学び、修理技術の修得を図る。実習前に実習講師と校内の教員が授業の方法、内容等の打ち合わせを行い、実習内容や生徒の学修成果の評価方法について定める。

実習期間中は、学生の実習実施状況や進捗状況等を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。

実習終了時には、実習の講師による生徒の学修評価の意見・評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
リペアⅠ	フレット、ナット等の交換・調整技術を学ぶ	(有)ギターワークス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の資質向上を図る目的として、専攻分野の講師を招き、教員に対し実技に関する知識・技術等を校内で、実施している。また、教員を企業等へ派遣し知識・技術等の研修も行う。さらに、外部団体が主催する研修等にも参加し実践的かつ専門的な知識・技術・技能の向上に努める。生徒及び授業に対する指導力の向上の研修は外部講師を招き校内で実施している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「弦楽器製作科ギタークラフトコース 実技研修」(連携企業等：寺田楽器)
 期間：9月22日(木) 対象：弦楽器製作科ギタークラフトコース
 内容：職場見学及び関係分野における実践教育への意見交換

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力の研修」(連携企業等：(株)ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)
 期間：5月～3月 対象：全学科
 内容：非認知能力について学び、学生の非認知能力向上のための授業設計を実践していく。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「弦楽器製作科ギタークラフトコース 実技研修」(連携企業等：タカミネ楽器)
 期間：5月25日(木) 対象：弦楽器製作科ギタークラフトコース
 内容：職場見学及び関係分野における実践教育への意見交換

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力の研修」(連携企業等:株ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)

期間: 5月～3月 対象:全学科

内容:非認知能力について学び、学生の非認知能力向上のための授業設計を実践していく。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、教育活動や学校運営の状況に関する評価を積極的に行い、その結果に基づいて改善を図り、社会にとって必要な人材を育成して行く。

自己点検評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明により、関係者に対して適切な説明責任を果たしていく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員の方から「教育環境」において、施設・設備状況は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているのかの点について、平成29年9月に御器所新校舎が完成し、教育環境は整えた。平成31年3月には新本部棟が完成し更なる教育環境が整うことにより学生に対する教育を充実してもらいたいとの意見が出された。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
矢木 敏喜	(株)矢木楽器 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業役員
松石 奉之	愛知県楽器商組合 組合長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等役員
鈴木 武裕	(株)愛知銀行 執行役員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業役員
梶田 詩織	(株)ビュッフェ・クランポン 営業部チーフ	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL:www.chubugakki.ac.jp

公表時期:5年3月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

平成19年度より学校教育法第133条、第134条第2項において準用する第42条及び同法施行規則第189条、第190条において準用する66条、68条により、学校自己評価の実施公表は実施することが義務付けられました。これに伴うかたちで本校では、平成26年度より学校自己評価委員会を立ち上げました。また、平成26年度より学校関係者評価に関するシステムの構築も手掛けています。自己点検を行うことで、更なる教育水準の向上に努めるよう工夫していきます。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標
(2)各学科等の教育	学校運営
(3)教職員	学校運営
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学修成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生の受け入れ募集
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	0
(11)その他	0

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL:www.chubugakki.ac.jp

授業科目等の概要

(文化教養専門課程弦楽器製作学科ギタークラフトコース) 令和04年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ボルトオンネックギター製作Ⅰ (塗装)	ガンによる吹付、塗装の種類、研磨の方法、磨き上げについて学ぶ。	1前	60	2			○	○		○		
○			ボルトオンネックギター製作Ⅱ (セットアップ)	ペグ、ブリッジ、ピックガードのマウント、配線、演奏できるようにボルトオンギターの組立、調整を学ぶ。	1前	60	2			○	○		○		
○			ベース製作Ⅰ (ボディ加工)	機械で加工する技術（バンドソー、ルーター、トリマー、サンダー）の技術習得向上を目指す。	1通	80	2			○	○		○		
○			ベース製作Ⅱ (ネック加工)	ボルトオンベースネックの機械加工（サンダー、トリマー、ルーター、バンドソー）の技術、トラスロッド、グリップ加工を学ぶ。	1通	128	4			○	○		○		
○			ベース製作Ⅲ (塗装)	ガンによる吹付、塗装の種類、研磨の方法、磨き上げのスピード青王ができることを学ぶ。	1通	38	1			○	○		○		
○			ベース製作Ⅳ (セットアップ)	ペグ、ブリッジ、ピックガードのマウント、配線、演奏できるようにボルトオンベースの組立、調整を学ぶ。	1通	36	1			○	○		○		
○			セットネックギター製作Ⅰ (ボディ加工)	メイプル、マホガニのラミネート加工、ボディアーチ加工、バインディング接着、ネックの仕込みについて学ぶ。	1通 2前	100	3			○	○		○		
○			セットネックギター製作Ⅱ (ネック加工)	セットネックタイプのネック製作。ボディの厚みや仕上がり後の弦の張力などを考慮した仕込み角の設定、グリップ加工、トラスロッドの仕込みについて学ぶ。	1通 2前	86	2			○	○		○		
○			セットネックギター製作Ⅲ (塗装)	セットネックギターのとの粉の塗り込み、塗装吹き付け。トップバックの養生やバインディングに吹き付けられた着色のハブキを学ぶ。	2前	30	1			○	○		○		
○			セットネックギター製作Ⅳ (セットアップ)	ハムバッキングPUを使用したLP回路の配線。チューン・0・マチックタイプの組み込み、調整について学ぶ。	2前	36	1			○	○		○		

○		アコースティックギター製作Ⅰ (ボディ加工)	アコースティックギターの側板の曲げ、表板裏板の作り方、プレーシング加工、箱閉じについての加工技術(鉋、のみ)について学ぶ。	2 通	140	4			○	○			○	
○		アコースティックギター製作Ⅱ (ネック加工)	アコースティックギターネックの木工加工技術、バンドソー、ルーター、トリマー、の使い方、鉋の使い方、トラスロッド、グリッパ、ジョイントの作り方を学ぶ。	2	80	2			○	○			○	
○		アコースティックギター製作ⅢⅣ (塗装)(セットアップ)	ラッカー塗装、ブリッジ接着、サドル調整、ネック調整、弦高調整、イントネーションチェックの方法について学ぶ。	2 通	60	2			○	○			○	
○		卒業製作Ⅰ (ボディ加工)	各自の設計したギター/ベースのボディ木工加工技術、外周バンドソー加工、キャビティ、ルーター加工、外周R加工、配線溝加工、曲げ木加工を学ぶ。	2 後	120	4			○	○			○	
○		卒業製作Ⅱ (ネック加工)	各自の設計したギター/ベースのネック木工加工技術、外周加工、ヘッド角、仕込み角、トラスロッド加工、グリッパ形状加工、指板加工を学ぶ。	2 後	80	2			○	○			○	
○		卒業製作Ⅲ (塗装)(セットアップ)	各自の設計したギター/ベースの塗装、セットアップ技術。塗装の吹きつけ、研磨、パーツ組み込み、ギター/ベースのサドル調整、ネック調整を学ぶ。	2 後	64	2			○	○			○	
○		刃物研ぎ・鉋台調整	刃物(のみ、鉋)の研ぎ方、種類、鉋台の作り方を学ぶ。	1 前	114	3			○	○			○	
○		治具工具製作	テンプレート、モールドの製作について学ぶ。	1 通	70	2			○	○			○	
○		設計・製図	設計と製図の書き方、見方について学ぶ。	1・2 通	216	7			○	○			○	
○		リペア	フレット、ナット等の交換・調整技術を学ぶ。	1・2 通	136	4			○	○			○	○
○		リペア理論	交換のやり方、調整のやり方について学ぶ。	1・2 通	24	1	○			○			○	
○		製作理論	ギター製作、ベース製作、アコースティックギター製作のソリッドボディ、箱作りを学ぶ。	1・2 通	100	6	○			○			○	
○		構成論	フェンダー、ギブソン、マーティンの歴史、ソリッドギター、アコースティックギターの構造を学ぶ。	1・2 通	60	4	○			○			○	

[illegible]

(留意事項)

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
中部楽器技術専門学校	平成1年4月1日	角堀 雅信	〒466-0027 愛知県名古屋市中区阿由知通3-13-6 (電話) 052-741-6788																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人中部学園	平成25年4月1日	理事長 角堀雅信	〒466-0027 愛知県名古屋市中区阿由知通3-13-6 (電話) 052-741-6788																								
分野	認定課程名	認定学科名	専任士	高度専任士																							
文化・教養	文化教養専門課程	音楽サービス創造学科	平成18年文部科学省 告示第34号																								
学科の目的	楽器の修理・製作のスペシャリストの養成																										
認定年月日	平成27年2月17日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
3年	昼間	3098時間	1598時間	0	0	0	1500時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
108人	63人	0人	4人	4人	8人																						
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末の学科試験・実技試験の成績に出席率を加味して評価する																							
長期休み	■学年始: 4月1日～4月7日 ■夏 季: 7月23日～8月21日 ■冬 季: 12月17日～1月9日 ■学年末: 3月11日～3月31日		卒業・進級 条件	所定の課程を修了すること。講義・実習科目は全て必修とする。筆記試験・実技試験の合格を原則とする。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的に連絡をとり、必要に応じて本人や保護者同伴で面接を実施する。		課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園祭実行委員、施設等へのボランティア演奏 ■サークル活動: 有																							
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 楽器店 ■就職指導内容 履歴書指導、個別面談、企業への学生幹旋 ■卒業生数 : 28 人 ■就職希望者数 : 26 人 ■就職者数 : 24 人 ■就職率 : 92 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 86 % ■その他 進学 1人、留學準備 1人 (令和2年度卒業生に関する 令和3年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ピアノ調律技能検 定3級</td> <td>②</td> <td>7人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>舞台機構調整技能 士3級</td> <td>②</td> <td>10人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>日本音響家協会3 級技能者</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③の いずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ピアノ調律技能検 定3級	②	7人	2人	舞台機構調整技能 士3級	②	10人	10人	日本音響家協会3 級技能者	③	22人	22人				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
ピアノ調律技能検 定3級	②	7人	2人																								
舞台機構調整技能 士3級	②	10人	10人																								
日本音響家協会3 級技能者	③	22人	22人																								
中途退学 の現状	■中途退学者 7名 ■中退率 9 % 令和3年5月1日時点において、在学者81名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者74名(令和4年3月5日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 心の病 ■中退防止・中退者支援のための取組 必要に応じて本人に面談を実施する。																										
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科の ホームページ URL	http://www.chubugakki.ac.jp																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

楽器業界の役職員や、業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する団体役員と、協同し教育課程を編成する。楽器業界における産業振興の方向性や、新しく身につけるべき知識やスキルを業界に携わる専門家の意見を随時取り入れることにより、自薦的かつ職業教育に適した教育課程の編成、授業内容の改善・工夫を連携していく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
中村 隆太郎	ナカムラ調律 代表	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
岡田 光史	ビュッフェ・グランポン・ジャパン大阪営業所長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
寺田 章吾	(株)寺田楽器 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
高橋 英二郎	(資)中善楽器 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
松石 奉之	愛知県楽器商組合 組合長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
角堀 雅信	中部楽器技術専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
早川 昌幸	中部楽器技術専門学校 進路指導部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
中村 大	中部楽器技術専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月9日 17:00～18:00

第2回 令和5年2月15日 17:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

管楽器リペア科のように、実技習得のゴールを明確にし、目的を持たせるとさらに良い。

学科ならではの広範囲の力に加え、もう一つ、例えば舞台の知識・技術を持って音楽教室の運営に関わることができるような、柔軟さを強みに持つとよい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

楽器業界が求める人材を、企業等の連携により、実習・演習等の授業を通して身に着けることによって、実践的、専門的なレベルの高い人材を育成することを目指す。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

1年次ではバイオリンの各部名称や構造、材料等を学んだ後、ペグ合わせや魂柱立ての実習を行う。その後、駒交換や弦交換について学び実習を行う。2年次ではメンテナンス全般を体験するほか修理方法や弓の毛替えについての理論も学ぶ。

評価は定期試験での知識定着確認と、それぞれの実習での作業精度で判断する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
バイオリン	バイオリンの全体構造や各部の役割、歴史や有名な製作者を学ぶ。また、簡単な修理やメンテナンス方法の知識を学ぶ。	池尻弦楽器工房池尻 雅博

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の資質向上を図る目的として、専攻分野の講師を招き、教員に対し実技に関する知識・技術等を校内で、実施している。また、教員を企業等へ派遣し知識・技術等の研修も行う。さらに、外部団体が主催する研修等にも参加し実践的かつ専門的な知識・技術・技能の向上に努める。生徒及び授業に対する指導力の向上の研修は外部講師を招き校内で実施している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ピアノ調律科実技研修」(連携企業等:㈱久米)
 期間:8月2日(土) 対象:ピアノ調律科
 内容:UPアクションモデルの改善

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力の研修」(連携企業等:㈱ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)
 期間:5月～3月 対象:全学科
 内容:非認知能力について学び、学生の非認知能力向上のための授業設計を実践していく。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ピアノ調律科実技研修」(連携企業等:㈱久米)
 期間:8月2日(火) 対象:音楽サービス創造学科
 内容:ピアノ設計者の方を招いての勉強会

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力の研修」(連携企業等:株式会社ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)
 期間: 5月～3月 対象: 全学科
 内容: 非認知能力について学び、学生の非認知能力向上のための授業設計を実践していく。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
 学校関係者評価は、教育活動や学校運営の状況に関する評価を積極的に行い、その結果に基づいて改善を図り、社会にとって必要な人材を育成して行く。
 自己点検評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明により、関係者に対して適切な説明責任を果たしていく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
 ・委員からLGBTについて今後企業もどう受け入れていくかを考える必要があるので、学校としてもどう対応していくかについて考えていく必要があるとの意見があった。
 委員からは技術者としての能力に加え、精神を鍛えるようなことを取り組んで欲しいとの依頼があった。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
矢木 敏喜	(株)矢木楽器 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業役員
松石 奉之	愛知県楽器商組合 組合長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等役員
鈴木 武裕	(株)愛知銀行 執行役員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業役員
梶田 詩織	(株)ビュッフェ・クランポン 営業部チーフ	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: www.chubugakki.ac.jp

公表時期: 令和5年3月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

平成19年度より学校教育法第133条、第134条第2項において準用する第42条及び同法施行規則第189条、第190条において準用する66条、68条により、学校自己評価の実施公表は実施することが義務付けられました。これに伴うかたちで本校では、平成26年度より学校自己評価委員会を立ち上げました。また、平成26年度より学校関係者評価に関するシステムの構築も手掛けています。

自己点検を行うことで、更なる教育水準の向上に努めるよう工夫していきます。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標
(2)各学科等の教育	学校運営
(3)教職員	学校運営
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学修成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生の受け入れ募集
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	0
(11)その他	0

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL:www.chubugakki.ac.jp

授業科目等の概要

(文化教養専門課程音楽サービス創造学科) 令和04年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			鍵盤楽器	ピアノの歴史、メーカー、構造、メンテナンス方法などを学ぶ。また、演奏家やピアノ以外の鍵盤楽器の知識を学ぶ。	1・2通	128	8	○			○		○			
○			鍵盤楽器（実技）	アップライトピアノの調律、簡単な調整・修理の技術を学ぶ。アップライト及びグランドピアノの外装脱着を学ぶ。	1・2通	128	4			○	○		○			
○			管楽器	管楽器の歴史、種類、メーカー、構造、メンテナンス方法などを学ぶ。また、演奏家などについての知識を学ぶ。	1・2通	128	8	○			○		○			
○			管楽器（実技）	管打楽器のメンテナンス、クリーニング、楽器の分解組立や簡単な修理技術を学ぶ。	1・2通	128	4			○	○		○			
○			ギター	ギターの歴史、種類、メーカー、構造、メンテナンス方法などを学ぶ。	1・2通	128	8	○			○		○			
○			バイオリン	バイオリンの全体構造や各部の役割、歴史や有名な製作者を学ぶ。また、簡単な修理やメンテナンス方法の知識を学ぶ。	1・2通	120	8	○			○		○			
○			バイオリン（実技）	バイオリンの簡単な修理やセットアップの方法を学ぶ。バイオリンの簡単なメンテナンスを学ぶ。	1・2通	120	4			○	○		○			
○			打楽器	打楽器の種類や構造、メンテナンス方法などを学ぶ。	2通	64	4	○			○		○			
○			電子楽器	電子楽器及び周辺機器の種類や発展史などを学ぶ。また、DTMの知識を得るために音楽制作を行う。	2通	60	4	○			○		○			

○		小物楽器	教育楽器から民族楽器までの種類・歴史・構造・メンテナンス方法などを学ぶ。	1通	64	4	○			○	○			
○		楽器演奏	弦楽器及び管楽器の演奏技術を学び、アンサンブルや演奏発表を体験する。	1・2通	144	4			○	○	○			
○		舞台音響技術	ホールの歴史や種類などの会場の知識、音響機器を中心とした舞台で使用される機材の知識、舞台設営に関する知識を学ぶ。	1・2通	128	8	○			○	○			
○		舞台音響実務（実技）	音響機器のセッティング及び操作方法や、舞台設営に関する技術を学ぶ。	1・2通	128	4			○	○	○			
○		コンサート制作	学生主体で演奏会を企画・開催するために、コンサート制作に関するスキル・知識を学ぶ。	2通	48	3	○			○			○	○
○		クラフト技術	楽器のキット制作を通じ、各種工具の取り扱いや基礎的な技術力を養う。	1通	140	4			○	○	○			
○		楽典	楽典の知識（楽譜の読み方と楽譜の書き方）を学ぶ。	1通	64	4	○			○			○	
○		音楽概論Ⅰ	クラシック音楽の曲や作曲家、歴史、世界の音楽の種類や地域性などを学び、各音楽ジャンルの理解を深める。	1通	64	4	○			○	○			
○		音楽概論Ⅱ	ジャズやロックの曲、ミュージシャン、音楽的特徴、歴史などを学び、各音楽ジャンルの理解を深める。	2通	64	4	○			○	○			
○		音楽産業論	音楽・楽器業界の全体像及び主要業種の取り組みや業界での立ち位置を知り、学生の視野を広げ、働く意識の向上を目的とする。	1前	32	4	○			○			○	
○		リテールマーケティング	店舗運営やビジネス実務を学び、小売店、商社、メーカーで働く学生を育成する。	2通	48	3	○			○			○	
○		音楽心理学	音楽が脳や心理に及ぼす影響や、ストレス緩和に与える効果などを学び、シチュエーションに応じた音楽の使い方を学ぶ。	2通	16	1	○			○			○	

○		ホームルーム	クラスミーティングやクラス行事の企画、準備、運営を行うことで、集団生活で必要や協調性やチームワークを養う。	1 2 3 通	190	6	○			○		○		
○		ビジネスコミュニケーション	ビジネスマンとしてのコミュニケーション力はもちろん、自己管理能力、自己志向力、協調志向力、基礎ビジネス力を向上し、人間力のアップを目指す。	1 通	52	3	○					○	○	
	○	ピアノ 調律実技	専門コース（ピアノ調律、管楽器、舞台・ギターリペア）のうち1つを学生が選び、専門的な技術力を身につける。	2 3 通	712	23			○	○			○	
	○	ピアノ 調律理論	専門コース（ピアノ調律、管楽器、舞台・ギターリペア）のうち1つを学生が選び、専門的な知識力を身につける。	3 通	200	13	○			○			○	
	○	管楽器リペア実技	専門コース（ピアノ調律、管楽器、舞台・ギターリペア）のうち1つを学生が選び、専門的な技術力を身につける。	2 3 通	712	23			○	○			○	
	○	管楽器リペア理論	専門コース（ピアノ調律、管楽器、舞台・ギターリペア）のうち1つを学生が選び、専門的な知識力を身につける。	3 通	200	13	○			○			○	
	○	舞台・ギターリペア実技	専門コース（ピアノ調律、管楽器、舞台・ギターリペア）のうち1つを学生が選び、専門的な技術力を身につける。	2 3 通	712	23			○	○				○
	○	舞台・ギターリペア理論	専門コース（ピアノ調律、管楽器、舞台・ギターリペア）のうち1つを学生が選び、専門的な知識力を身につける。	3 通	200	13	○			○				○
		○ 音楽著作権	音楽ビジネスに関わる著作権の基礎知識を学ぶ。	3	32	2	○			○			○	
		○ ピアノ調律技能検定対策(学科)	ピアノ技術の理論やピアノの歴史、構造、ピアノ曲などを学び、ピアノ調律技能検定3級学科試験の合格を目指す。	3	16	1	○			○			○	
		○ 音楽研究	1, 2年次で学んだ音楽概論Ⅰ、Ⅱの授業内容をベースに、学生がテーマに沿って音楽について研究・発表する。	3	32	2	○			○			○	
		○ リテールマーケティングⅡ	マーケティング戦略のための様々な分析方法（SPT、VPなど）を学び、それらを使ってプレゼンテーションする能力を養う。	3	32	2	○			○			○	

		○	コンサート制作Ⅱ	コンサート制作Ⅰのスキル・知識を応用し、学生主体で演奏会を企画・開催する。	3	32	2	○			○	○		
		○	音楽健康指導士	対象者の身体的な問題を理解するための生理学を学び、音楽とエクササイズを使った実践的なプログラムを体験する。	3	32	2	○			○	○		
		○	バイオリン毛替え実習	工具の取り扱いや治具の制作などの木工作業を含むバイオリンの弓の毛替えを行うための理論と実践を学ぶ。	3	80	2			○	○	○		
		○	卒業前研修	個人の技術向上や、内定企業で実際の職務を体験し、卒業後に即戦力として活躍できる下地をつくる。	3 後	160	5			○	○	○		
合計					37科目		3098単位時間(234 単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	19 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。